

2014.1.31

中央区

市役所本館 5階 全員協議会室

中央区自治協議会まちづくりワークショップのまとめ

新潟市中央区自治協議会

まとめ：特定非営利活動法人 まちづくり学校

実施概要



日時：2014年1月31日（金）13：30～15：00

会場：市役所本館 5階 全員協議会室

主催：中央区地域課、政策調整課

コーディネート：NPO 法人 まちづくり学校

小西明彦、池井豊、山賀昌子

当日のプログラム

時間	内容
13：30	オープニング（主催者挨拶）
13：40	区ビジョン点検シートの説明
13：45	質疑応答
13：50	ワークショップの手順説明
14：00	グループ内での取り組み評価（意見出し）
14：30	今後の施策の方向性について（意見出し）
14：45	グループ発表～全体確認
15：00	終了

当日のワークショップ風景



1-1 都市機能の向上

グループ1：藤田孝一、戸川芳孝、山口浩二、鈴木由美子、高橋幸夫

今後の施策の方向性

- 見るべき拠点をPR
- まちなかを活性化するための公共交通体系の整備

中央区には、観光拠点になりうるものがたくさんあるので、それらに磨きをかけ、県外に対してもPRしていけるようにするとともに、観光拠点を結ぶ公共交通体系を整備し、まちなかが活性化できるとよいと考えた。

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

①新潟駅周辺の都市基盤整備

- かなり時間がかかったが、これからももっと早く進めてもらいたい。
- 都市づくりの顔を作っているので満足。

- 在来線の高架化に対して不満。当初計画より大幅に遅れて関係者に迷惑をかけている。
- 高架化は大変良いと思うが、もっと早くやってほしい。
- 高架化後も一般車の通行を考えていきたい。

②公共交通のあり方

- 公共交通には、不満足。市民意見取り入れてほしい。
- BRT に対して不満。地域の意向を無視して進めている。
- 元々、便利な所にいるので気付かなかったことがあるとわかりました。不満に思う人たちの意見を聞く時間が少なかったのでは。
- BRT 計画は、市側の一方的なやり方で説明会と称しているが市民の意見を聞く気がないので不満。
- BRT だけでなく、モノレールも駅南からは考えていく事。
- 南部一帯を東京お台場風にモノレール周回できるようにしては。

③鳥屋野潟南部の新たな拠点形成

- 幼児が喜んでいる。充実している。
- 大きな拠点を作ることは、大変よい。

- 鳥屋野潟南部にバスでまっすぐ行けるようにしてほしい。
- 新潟には動物園がない。もう少し大きな施設を希望する。
- 鳥屋野潟南部に施設整備が集中して不満である。

④まちなかの活性化

- 「まち歩き」に対して満足。下町地域の活性化につながっている。
- 良い取り組み。案内の人たちのリタイア後の生き方にも繋がっている。

- ある程度の都市には、観光タクシー的なものがあるが、新潟市内にはない。
- 「まち歩き」の取り組みはあまり知られていない。とても大事な取り組みなのでもっとPRを。

1-2 都市機能の向上

グループ2：渡部一成、志賀美智代、大堀隆夫、相田晃子

今後の施策の方向性

□ 連動性・利便性・賑わいを高める「まち」

中心市街地全体が水辺空間を含めて連動性がある発展を目指し、イベント教育施設を含めた公共交通の利便性を高め、賑わいを高める「まち」がよいと考えた。

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

①新潟駅周辺の都市基盤整備

- 駅南口広場がきれいになり、たくさんのいろいろな交流ができています。
- 駅の南北が道路でつながるのでよい。
- 計画は、良かった。

- タイムスケジュールがみえない。
- 計画の遅れ。

②公共交通のあり方

- 鳥屋野潟方面へのアクセスが良くなるのは、良いと思う。

- バスに乗らないから、良いか悪いかわからない。どれに乗るかも分からない。
- 市が偏った新バスシステムを行っている。
- 市民、住民の意見がしっかりと聞けていないのでは。
- BRT よりも住民バスや区バスの充実の方がよい。
- (説明前から)BRT を買うことがすでに決まっている。

③鳥屋野潟南部の新たな拠点形成

- こどもたちが集ういろいろなセンターが集合してよい。
- 鳥屋野潟という場所はよいと思う。
- 鳥屋野潟南部へたくさんの子どもたちにふれあう機会を与えられる場が増えて大変よかった。

- アクセスが心配。

④まちなかの活性化

- 「まち歩き」で地元を再認識できた。

- まち歩きは応募者が多く、抽選に当たらない。
- 多方面への周知が不足では。新潟市外にも。

2-1 水辺の魅力づくり

グループ3：鈴木喬、中村昌雄、関谷美紀枝、三條澄、杉原名穂子、田中豊

今後の施策の方向性

□ 花と水のまち～ネットワークを充実によって

多様な個性を大切にし、それぞれの個性を伸ばし、それらをしっかりとネットワーク化することで魅力度向上の相乗効果を狙い、『花と水のまち』を実現させる。

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

①賑わいのある水辺空間の形成

<ul style="list-style-type: none"> ○昔みたいに水辺でボートが浮かぶ風景を見たい。花があり人が集まり。 ○やすらぎ堤の整備が進んでいることは良い。 ○やすらぎ堤を作り上げた。更に充実が必要。 ○やすらぎ堤が整備されているのは、人を集めて良いと思う。 ○信濃川左岸(やすらぎ堤側)の整備が進んでいる。 ○信濃川両岸、西海岸地区の整備が進んできた。 ○信濃川の堤防の開発を防災機能を考慮して開発されていることは評価できる。 ○信濃川、鳥屋野潟の開発が進められており、それなりの成果は出ている。 ○万代橋のチューリップは良い。もっと花が多くて良い。 ○堀の一部再生は、評価できる。 ○早川通りの整備で潤いを感じる。今後も新潟の湊町としてのシンボルであった堀の再現をしたら。 ○信濃川の水の上バスの運行をしたこと。 ○水上バスは良いと思うが、両岸がさみしい。 ○ジャズストリートは楽しい。 ○潟、川、海をつなぐビジョンを提示したことがスタートして良かった。問題はこれから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○信濃川、鳥屋野潟等の開発整備に統一した理念がない。両方をリンクさせた開発が必要。 ○信濃川、鳥屋野潟の整備に伴い、利用者が増えているが、マナーが低下(犬のフン等の始末)している。 ○信濃川(万代側)が開発(整備)が遅れている。(周遊できるように整備する必要がある。) ○信濃川のやすらぎ堤の整備が不十分(休憩所等)。 ○やすらぎ堤等の整備が進んでいるが、子供達が自由に遊べるエリアが少ない。 ○海岸を利用した催し物を多く取り入れたら。例えば花火を海岸に。 ○海岸沿いがさみしい。 ○水辺の魅力について、取り組みの割に進みが目で見えられない。 ○水辺でボートや風景を楽しむことができると良い。花があると良い。 ○信濃川沿いが道路とうまくリンクしていない。 ○信濃川での季節ごとの取り組みが画一的。 ○橋にチューリップを置くのがなぞ。プランターが貧弱。 ○各橋にもっと個性があると良い。 ○信濃川水上運行形態が不十分。(関屋分水、日本海、信濃川の回遊コースを設置)。 ○水上バスの両岸をもう少し魅力的にしないと誰も利用しない。 ○水上バスのPRが足りない。乗船者数が少ない。 ○やすらぎ堤での催し物が少ないのではないかな。 ○水辺を取り入れたまちづくりが欠けている。 ○早川掘りの次にどのようにまちづくりするか。
--	---

2-1 水辺の魅力づくり

グループ3：鈴木喬、中村昌雄、関谷美紀枝、三條澄、杉原名穂子、田中豊

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

①賑わいのある水辺空間の形成（続き）

- 新潟島の都市部で水辺に関わる部分が不足。(掘割等)
- どこで何が変わったのか、情報が不足して知らない。
- 水辺整理しても市外にアピール不足でイメージが伝わっていない。
- 一つ一つ文章化すると素晴らしいのが、重要性があるにもかかわらずまとまりが見えない。

②鳥屋野潟の保全、活用

- 鳥屋野潟の自然環境の保全活用を考えるのは、将来的に良い。
- 鳥屋野潟の整備は、よく進んでいる。

- 鳥屋野潟には、観察席はあるが、スタッフが常駐している建物が少ない。
- 鳥屋野潟開発の将来像が不明確。
- 鳥屋野潟の周辺をもう少しきれいに。全体的に取り組んでいる割に進んでなく、汚い。
- 鳥屋野の自然環境のシンポジウムを行っているとのことだが、進みが見えない。
- 鳥屋野潟を語る時、佐潟、福島潟とセットにしてアピールした方が良い。

③海岸林、松林の管理・利活用

- 住民による植樹活動は良い。
- 「協働の森づくり」を事業化したことは、良いことである。

- 「協働の森づくり事業」知らなかった。アピール不足である。

④新潟魚市場及び水揚場跡地の検討・整備

- 観光のため、水辺空間を重視している。駐車場を1st stepとして進めてほしい。
- ピア万代は評価できる。ただし、長期的な視点では、どうか。

- 海岸の新潟市としてのビジョンが不明。
- 駐車場が不足。

2-2 水辺の魅力づくり

グループ4：深井俊輔、阿部洋一、菊地弘隆、豊嶋直美、小島良子、田村勝義

今後の施策の方向性

- 海岸、鳥屋野潟、やすらぎ堤などに市民が集うまちづくり
- 自信をもって案内できるまちづくり

中央区には、「海岸」・「鳥屋野潟」・「やすらぎ堤」など、自慢できるものが存在しており、これらを線と線をつなぐことで魅力アップにつながり、自信をもって市外の人を案内できるようになる。そのようなまちにしたい。

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

①賑わいのある水辺空間の形成

- 「早川掘通り」が完了した後、「蔵所堀通り」の再開発を考慮。
- 「早川掘通り」の整備が進み、地元は期待している。

- 「早川掘通り」の堀の再生は、堀の巾深さが小さくて不満だ。
- 「早川掘通り」ができて、周りの整備(お店など)も充実しなければ、人は来ない。
- 「早川掘通り」不満足。堀とは言えない。

②鳥屋野潟の保全、活用

- 鳥屋野潟の水が前よりきれいになった。
- 鳥屋野潟のあるべき姿について、シンポジウムが開催されて良かった。

- 周りの整備は進んだ実感はあるが、鳥屋野潟自体の整備の進みが遅い。
- 桜の木の間が駐車場になっている。交通量が多い。
- 保全や活用について若い人の意見を聞くことが必要では。
- 鳥屋野潟をまたぐ橋の建設を。子供と釣りのできるように。

③海岸林、松林の管理・利活用

- 汐見台団地跡が整地されて、子供達とっしょに植樹ができ良かった。

④新潟魚市場及び水揚場跡地の検討・整備

- ピア万代は、バスで買物に来る団体さんも多く、賑わっている。家族でよく行っている。
- 新潟市外の人を連れていける場所として一番。

- 2階食堂のメニューに不満だ。(地産地消の材料利用、おいしいものの提供)
- ピア万代と朱鷺メッセが近くて遠い。間に川があるので埋めて。
- ピア万代駐車場が少ない。(土日が特に)出入口の改善。
- 土日、東港線が渋滞する。駐車場不足。交通アクセスが悪い。

3-1 地域のまちづくり

グループ5：鹿島興二、佐藤豊、牧野秀樹、大阪昌子

今後の施策の方向性

- 地域の実態(魅力や誇り、課題も)を一人一人が知っている(目が行きとどく、発信する)まち
- 地域コミュニティを活性化し、支援体制を充実させ、学校との連携を深めることによって安心安全なまちを目指すとともに、地域の実態を一人一人が知るにより、誇りを持って地域の魅力を発信できるようにしたいと考えた。

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

① 地域コミュニティ協議会の組織の強化

- コミュニティ協議会の活発な活動で活性化が保たれている。
- コミ協の拠点(たまり場)が充実してきた。

- 要援助者をコミ協が主になって行うとの話があるが、金、人員をどうすればよいか。
- コミ協の官僚化の懸念がある。(組織が大きくなると)
- コミ協内の「有志、個人」の活動も支援して欲しい。個人の創意を活かしたい。
- コミュニティ協議会の事務所を持たないところの活動がうまくいかない。役員会も会場探しから始まる。せめて、12、3名の役員会が開ける場所が欲しい。
- 夜の会議を増やすべき。会議の会場に地域の集会所を利用して欲しい。
- コミ協の力量(格差)に応じた支援策にしてほしい。

② 災害への備えの支援体制

- 支援体制が充実しつつある。
- 自主防災は、学校との取組がうまく出来て良い。

- 全般に言えることだか、地元でそれが通じているのか。(住民として)
- 高齢者、若年者と対象を分けて考えるべき。高齢者に遠隔地の避難所誘導は酷。
- 空家対策。

③ 高齢者、子育てへの支援体制形成

- 高齢者や子育て支援は充実してきた。

- 高齢者、子育て相互に情報を発信して欲しい。
- 日常的な交流を通して実態や課題を「見える化」して欲しい。

3-1 地域のまちづくり

グループ5：鹿島興二、佐藤豊、牧野秀樹、大阪昌子

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

④学・社・民融合による教育推進

- 進んできている。
- 地域教育コーディネーターが各学校に配置され、満足している。
- 学・社・民融合で地域と学校との連携で子供達と地域との関係がとても良く出来るようになった。

- 地域教育コーディネーターは、各地区のコミ協とかかわりのある方をお願いしたい。
- 地域教育コーディネーターが地域の会議に出てこないため、なかなか地域のことを知ってもらえない。
- ボランティア活動の輪を広げるにはもう少し地域の体制づくりが必要だと思う。(参加したい人同士の)
- ふれあいスクールの場所が遠隔地にならないようにしてほしい。
- 成果を「見える化」して欲しい。
- 地域の課題について、わかりやすくして欲しい。

3-2 地域のまちづくり

グループ6：高橋廣光、本間之子、榮森征行、沢井浩

今後の施策の方向性

- 市民が助け合い、安心、安全に暮らせるまち
- 郷土の魅力が感じられるまち
- 利便性のある、人にやさしい、快適なまち

超高齢社会、人口減少社会が到来する中で、地域のまちづくりの基礎となる地域コミュニティを一層充実させ、誰もが安心安全に郷土に誇りをもって暮らせる快適なまちにしていきたいと考えた。

これまでの取り組み評価

満足、充分の評価

不満足、不十分の評価

①地域コミュニティ協議会の組織の強化

- 運営費や補助制度の創設は良い。
- コミ協運営助成金や地域活動補助金をいただき、有意義な活動ができた。
- コミュニティ協議会で敬老祝い会を開催でき、地域の触れ合いができた。

- 自治協委員研修会では、問題となるテーマがそれぞれの区の実情と異なり意義をあまり感じなかった。
- 地域にコミュニティ協議会の存在がわからない人が多い。もっと宣伝して欲しい。
- 自治協委員交替により、前期からの事業継承に問題があることもあった。
- 事務所の運営にかかる補助金を増額してもらいたい。
- 役所の退職者に地域の協力が少ない。

②災害への備えの支援体制

- 役所の相談窓口の対応が昔に比べ親切になった。

- 小さな自治会にもスムーズに自主組織が出来るよう考慮願いたい。
- 自主防災組織に対し、若い人の協力が少ない。

③高齢者、子育てへの支援体制形成

- 子育て支援情報の発信は、とても役に立った。
- 高齢者や障がい者への援助の心が教育されてきている。

- 高齢者、子育て相互に情報を発信して欲しい。
- 日常的な交流を通して実態や課題を「見える化」して欲しい。

④学・社・民融合による教育推進

- 良い組織である。

- 役所の多くの仕事が自治協、コミ協、自治会に多く降りてくる。
- 自治会と組織とでうまく連絡がとれていない。
- 地域教育コーディネーターは地域よりも学校に偏りがち。人数を多くした方が良い。
- 助け合う心を育てる地域づくりに努めていただいているが、助けてほしい高齢者が増え、助ける若い人が減っていることに対する方策が見えにくい。